

エンゲージメントマナー検定3級の対策講座に参加しての感想

2016年10月12日のエンゲージメントマナー検定3級の対策講座に参加させて頂きました。

飯田さんには「エンゲージメントマナー」の概要や、検定を通して実現したいことをお聴きしてはいたのですが、講座を受講するまでは「エンゲージメントマナー」について具体的な知識は何もありませんでした。

特に私はウェディング業界との関わりは皆無で、美しい立ち振る舞いを求められる接客業の経験もなく、はっきり言って「マナーとは無縁。冠婚葬祭のときだけ、大失敗をやらかさなければそれでいい」というような、「最低限」の生活をしてきました。

そんな私が、ひょんなことから飯田さんと出会い、講座まで受けることになり、「大丈夫か、私……」という思いで、当日。しかも、方向音痴な千葉県民は、渋谷で道に迷い、あたふたしながら、辛うじて時間ギリギリに到着し、息切れしている状態……。

会場に入ると、お洒落な女性ばかり10数名いらっしや、完全に「いつも私がいる場所と違う」空気感。もう少し気合を入れた格好をしてこなくてはいけなかったか……と反省しつつ、着席しました。

やっぱり、私と「エンゲージメントマナー」は無縁なんじゃないか？
と、アウェー感をひしひしと感じながらの幕開けでした。

★随所に笑いがあって、飽きない、楽しい2時間半

が。

始まってみると、意外にも「ああ、そうだね。分かる、分かる」ということや、「なるほど、そういうところに気を付けると、もっといいかも」「それは知らなかったけれど、おもしろいなあ」「そう！ そういうことを、若い人には早く知っておいてもらいたいなあ」ということが目白押し。

マナーの講師らしく、飯田さんは紺のワンピースを凧と着こなし、美しい所作で講義をしてくださるのですが、ちゃんと押さえるところは押さえつつも、飯田さんらしいお茶目な部分が随所随所に覗いて、飽きさせません。

検定の「対策講座」なのに、何度声を出して笑ったことか（あ、私以外の方も笑っていましたが、もっと上品に笑っていて、太い声で笑っていたのは、私だけでした……）。

2時間半の講座でしたが、特に休憩時間が設定されていなかったにも関わらず、本当に「あつという間」でした。

★対策講座で学べたこと

対策講座で学べたことは、大きく5つでした。

まず1つ目は、「バイオリズム」を意識すること。

「身体」は23日周期、「感情」は28日周期、「知性」は33日周期で、「-1」～「+1」の間で変化すると言われているのがバイオリズムです。

私も高校時代にバイオリズムを知って、毎月自分でバイオリズムの表を作り、日記に毎日の自分の「身体」「感情」「知性」のレベル評価を数値化して書いていたのを思い出しました。その結果、高校生の私が出した結論は「自分の状態を左右するのは、バイオリズムではなく、身近で起こった出来事だ」というものでしたが、飯田さんの話を聴いて、高校時代の自分の間違いに気づきました。

私の間違いは2つで、「女性は“感情”のバイオリズムに一番左右されるから、まずはそれを見ること、というのを知らなかった」「-1か、0か1かではなく、“上っているときなのか”“下っているときなのか”が大事、ということを知らなかった」ということ。

講座では、「上がっているときには、こういうことをした方がいい」「下がっているときは、こうやって過ごすといい」など具体的なアドバイスもあったので、改めて、バイオリズムと自分自身の変化の関連を意識して、生活に取り入れてみよう、と思いました。

2つ目は、「マナー」と「エチケット」と「作法」の違い。

これは、非常に興味深い話でした。

それこそ、冠婚葬祭には縁がなく、ほとんど人に会わない仕事をしている人なら「エチケット」や「作法」は、本当に最低限でいいかもしれません（会った人に、ちゃんと挨拶をすとか、本当に最低限は必要でしょうが）。

でも、「マナー」というのは、テクニックではなく、心であり、思いやりということ。

「私はマナーとは無縁の生活だから」と思って、40年以上生きてきた自分を少し反省しました（ま、思いやりがなかったわけではないとは思いますが）。

この部分は「知識」の話ですが、知っておいて損はない部分です。

3つ目は、0.5印象について。

第1印象は意図して作れるけれど、0.5印象はその人の内面からにじみ出てしまうもので、なかなか作れない、とのこと。

そして、0.5印象で「なんかこの人嫌だな」と思った人は、第1印象、第2印象、第3印象と重ねていき「意外といい人かも」となっても、最後には「やっぱり、最初の印象が正しかった」となることが多い、という話。

確かに、最初の直感的な判断が正しいということも多いものです。

講座では、「0.5印象を作る5つの要素」が何なのかや、第1印象ほどは意図して作れないながらも、「0.5印象を良くするためにできること」を教えてもらえました！

特に「手は感情を表しやすい」という話は興味深く、口下手だからこそ、もっと手に語らせてみようかという学びになりました。

また、「色」についても、カラーコーディネーターなどの講座とは違う色の話が聴け、服の色の選び方にも、新たな視点が加わりました。

4つ目は、5感について。

五感を研ぎ澄まそうというのは、他のところでも聴くことがありますが、この講座では、「5感に支配されず、逆に巧みに使って、相手を刺激する」ことが学べました。

こんなことは考えたことがなかったので、新鮮でした。

たとえば毎回同じ香水をつけて恋人に会っていたら、恋人は自分がないときでも、その香水の匂いを嗅ぐだけで、自分を思い出す。それは「五感を味方につけた、“ブランディング”の1種だ」という話です。

私も個人事業主なので「ブランディングが大事」というのは耳にタコができるほど聴いてきましたが、そんなに難しく考えすぎず、「私といたら、これ」と相手に印象付ける何かがあればいいんだな、ということは学びでした。

飯田さんは例として、「Facebook においしいお肉を食べた、という投稿をたくさんしていたら、講師に出向いて行ったときに出てくるお弁当に焼肉弁当が多くなった」という話をされていましたが、こういうのも、意外と大切ですね。

他にも「ディズニーが好きだから、ディズニーの物を1つは持っている」とも言われていましたが、そうやってアピールしていたら、「飯田さんに、なにかちょっとお礼をしたいな」というときに、お礼を選びやすくなりますよね。意外と、自分の好きな物を相手に伝えておくというのも、相手への思いやりなのかもしれない、と感じました。

5つ目は、言葉の選び方について

「失う」「消える」「去る」などの忌み言葉を使わないこと。そして、マイナスの意味合い

の言葉をプラスのものに変えてみるワークをしました。

例えば「あきっぽい」というのを「流行に敏感」と言い変えてみる。「せっかち」というのを「てきぱきしている」と言ってみる。大分印象が変わります。

また日常に起こったことでも「けんか」を「理解を深めるチャンス」と、「ドタキャン」を「自分の時間が増えて良かった」と捉えなおしてみる。これもまた、印象がぐっと変わります。

これは自分のことでもそうですが、相手に対して言うときはさらに、気を付けた方がいいことですね。そしてそのことを飯田さんは「相手にとっていい縁が来るように考えて、言葉を選ぶ」と言われていました。こういう思いも「マナー」なんですね。

「おみくじを作っている人になったような気持ちで、言葉を選んでみましょう」という言葉が特に印象的でした。

良い言葉が良い人生を作るというのは、よく言われることですが、本当にそうだと思います。これは、若い人にも、もっと知ってもらいたいことだなと感じます。

★まとめ

エンゲージメントマナーとは、「つながりのマナー」だということで、3級では「自分とのつながり」、2級では「大切な人とのつながり」、1級では「環境とのつながり」がテーマになっています。

3級と聞くと、初歩的な入り口のイメージですが、飯田さんいわく「3級に一番伝えたいエッセンスを込めている」とのこと。確かに講座も、2時間半とは思えない、密度の濃い内容でした。

以前飯田さんは、自身の人生が好転したきっかけとして、「つながりを意識したことが大きかった」と話されていました。「人との縁は、自分からは切らないようにしている」とも。そんなふうに、人生の良い流れともしっかりつながれるようになる意識の持ち方、振舞い方が「エンゲージメントマナー」なのだな、と、講座を受けて改めて感じました。

試験対策講座なので、随所で「ここはよく読んでおいてくださいね」など、色々ヒントもあり、検定を受ける方はテキストを読むだけではなく、是非、講座に参加してもらいたいと思います。

ただ、検定のためだけではなく、自分の人生のためにも、受けて損はない講座だと思います。

一緒に参加されていた方のなかには、来月結婚式を挙げるという方がいて、「結婚式のことを決めてしまう前に、これを知っていたら良かった」と言われていましたが、結婚式がこれからの方や、そういう相手との出会いがこれからの方には特にオススメです。

マナーと無縁に生きていかれる人はいない。ということ、私もこの講座を受けて、痛感

しました！ 良い学びをありがとうございました。

◆エンゲージメントマナー検定のサイト

<http://jem.or.jp/kenteiguide.html>

◆飯田さんのインタビュー記事に戻る

<http://vitarals.com/2016/08/iida.html>